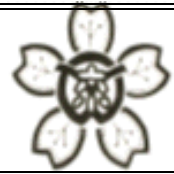


朝六小だより

朝霞市立朝霞第六小学校
児童数 1037名
令和6年3月1日号

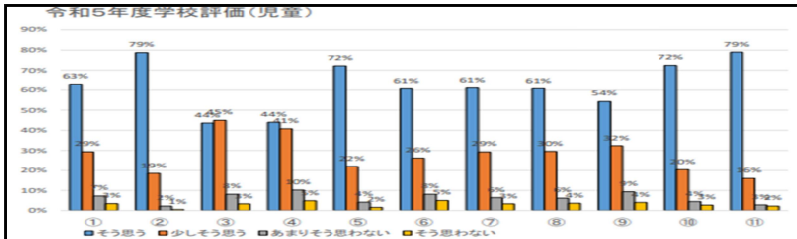


次年度も「自律と探究」を継続

校長 田邊 雅也

令和5年度の学校評価へのご協力、誠にありがとうございました。2月の学校運営協議会では、「自律と探究」の継続でご承認をいただきました。今号は、次年度の方向性についてお伝えします。

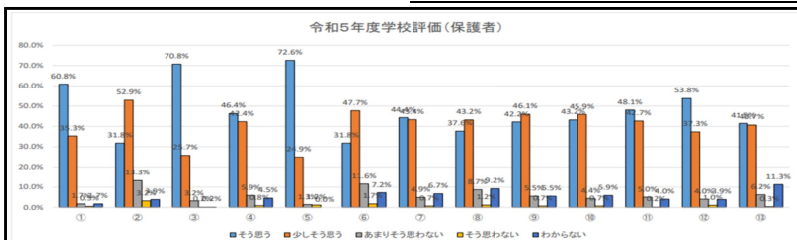
児童アンケートから



- ①学校が楽しい。
- ②友だちとなかよくしている。
- ③自分で考えたり、行動したり、進んで学んだりする力がついてきている。
- ④毎日の学習がわかる。
- ⑤タブレットを使って学習をすることができる。
- ⑥運動する力が ついてきている。
- ⑦自分から あいさつや 返事が できる。
- ⑧安全に 注意して 過ごしている。
- ⑨バランスのよい 食事をしてしている。
- ⑩こまったとき 先生は、話を聞いてくれる。
- ⑪わからないとき 先生は、しっかり教えてくれる。

児童のアンケートでは、「自律と探究」の学習を目指す上で、③「自分で考えたり、行動したりする力」が、前年度の91%から89%、④「毎日の学習がわかる」87%から85%と、それぞれ-2%の微減となりました。しかし、全体として、全11項目で80%以上となり、そのうちの6項目は90%以上、全体的に数値が高く、児童は前向きに生活できた、と分析しています。

保護者アンケートから



- ①子どもは、学校教育目標の「思いやりのある子」に育っている。
- ②子どもは、学校教育目標の「自ら学ぶ子」に育っている。
- ③子どもは、学校教育目標の「元気な子」に育っている。
- ④学校は、子どもの良さを見つけ、伸ばそうとしている。
- ⑤学校は、タブレット端末の活用を推進している。
- ⑥学校は、子どもの興味や意欲、個に応じた指導をしている。
- ⑦学校は、子どもの興味を持った行動を適切に指導している。
- ⑧学校は、子どもの不安や悩みの相談にのってくれる。
- ⑨学校は、健康の保持増進について適切に指導している。
- ⑩学校は、給食指導・食育指導について適切に指導している。
- ⑪学校は、防災、防犯、事故防止について適切に指導している。
- ⑫学校は、PTAや学校応援団、地域の方々と教育方針を共有し、教育活動を実施している。
- ⑬学校は、目指す学校像、「自覚・オーセンティックな学び」を学校教育の中で実践している。

保護者アンケートの「自律と探究」に関わる項目について、前年度と比べ、②「自ら学ぶ子」は+8%、④「子供の良さを見つけ、伸ばす」は+6%、⑥「興味や意欲、個に応じた指導」は+10%でした。前年度は、子供たちと保護者の「自律と探究」への評価に、やや乖離がありましたが、保護者の皆様の評価が高くなってきています。

「自律と探究」の認識が一致しつつある

成果は、「自律と探究」に関する項目で、子供と大人の認識が一致しつつあることです。保護者・地域の皆様が、本校の教育活動へご協力してくださった賜です。加えて、本校の教職員の授業改善への意識は100%となり、子供も、保護者も、教職員も、「自律と探究」という、目指す学校像についての認識が、広がっているように感じます。保護者・地域(学校運営協議会、学校応援団、PTA、おはなしの木、ぐらんぱ等)との連携が、市内の商店会、スーパー、市役所等の公共機関へも拡大し、子供一人一人のオーセンティック(本物)な学びを支える「目」が、広がりました。共に教育活動を展開できたことが、「自律と探究」の意識を向上させた大きな理由だと考えます。

ボランティア精神は、目指すところ

学校だより1月号では、私の生まれ故郷の能登半島が被災したことを触れさせていただきました。先日、帰省を兼ね、微力ながら、生まれて初めて、災害ボランティアに参加しました。現地での交流から、お金では買えない喜びを味わうことができました。それは、「自分で、自分から」、「誰かのため、何かのため」という、ウェルビーイングにも関係する、ボランティア精神による感動だと思いました。その様子を、3月学校朝会で子供たちに紹介し、保護者の皆様向けには、限定公開YouTubeにて公開しています。ボランティア精神は、「自律と探究」の学びで、目指すところだと感じています。

次年度も「自律と探究」を継続

2月下旬、今年度最後の学校運営協議会が開催されました。「自律と探究」という目指す学校像を、次年度も継続させていくことで、ご承認をいただきました。保護者・地域と連携し、実生活や将来につながる本物の学びを、これからも継続していきます。連携することで、災害で大切になる「自助・互助・共助・公助」の精神の中の、地域と共に助け合う「共助」の一助になれば、と思っています。子供たちと保護者・地域が顔を合わせる教育活動を行いながら、「社会総がかりの教育」を深化させていきます。次年度の方向性について、ご理解、ご協力をお願いします。